

＜検索用キーワード＞ 外国語活動 校内研修 教員研修 現状把握アンケート

犬塚 章夫

の企画をするとともに講師となり、各小学校の中核教員を研修することにした。平成 21 年度は、愛知県総合教育センターでの 2 日間の研修を受けた各市町村の代表教員が講師となり、各市町村で中核教員研修が実施された。しかし、全部の市町村で研修会は実施されたものの、その後の「校内研修」に結びつかなかった例も多いという実態がみられた。そこで、平成 22 年度の愛知県の研修テーマを「校内研修の円滑な実施」とし、そのための手だてを講じることにした。

2 校内研修プランに関する先行研究

校内研修のプランは、文部科学省の『小学校外国語活動研修ハンドブック』(p13,14)に例示がある。しかし「自校の課題」など、具体的に何を行えばよいのかが分かりにくい部分もみられる。

次に 2 年間の校内研修の一例を示すが、前項③でも述べたように、あくまでも各学校の実態に合わせた研修計画となるよう、創意工夫が必要である。(例)小学校外国語活動の年間研修計画（2 年分）

■ 1 年目

学期	(1)授業指導力向上研修（年間 10 時間）	(2)英語運用能力向上研修（年間 5 時間）
1 学期	○校内研修オリエンテーション （小学校外国語活動・理論編） [1 時間程度] ○授業研修 [1.5 時間] 研究授業と授業研修会 （研究授業・教材作成方法・指導案等検討）	○クラスルーム・イングリッシュの意義と活用方法 [1 時間] （CD 等を利用し、発音、クラスルームイングリッシュ等、小学校外国語活動で使われる英語表現の説明と確認）
夏休み	○学年別教材作成研修会 [1.5 時間] （児童に合った教材作成①） ○学年別教材作成研修会 [1.5 時間] （児童に合った教材作成②）	○クラスルーム・イングリッシュのブラッシュ・アップ研修 [2 時間] （ALT 等を招いての講習会） ○「英語ノート」などにある歌、チャンツ、ゲーム等の講習会 [2 時間]
2 学期	○指導主事訪問授業研修会 [1.5 時間] （年間指導計画、評価方法、指導案作成） ○授業研修 [1.5 時間] （研究授業と授業研修会）	（個人研修）
3 学期	1 年間を振り返って ○校内協議会（反省と課題） [1.5 時間] （年間指導計画、効果的な教材活用、授業方法等）	（個人研修）

■ 2 年目

学期	(1)授業指導力向上研修（年間 10 時間）	(2)英語運用能力向上研修（年間 5 時間）
1 学期	○2 年次校内研修オリエンテーション （自校の課題） [1 時間程度] ○授業研修 [1.5 時間] （研究授業と課題解決「効果的な授業の創造」）	○スキル・アップ教材の視聴 [1 時間] （ティーム・ティーチングで使う基本的な英語表現の練習、ワークショップ等）
夏休み	○学年別指導方法等改善研修会 [1.5 時間] {ケース・スタディその 1「指導方法」} ○学年別指導方法等改善研修会 [1.5 時間] {ケース・スタディその 2「授業運営」}	○校内英語ブラッシュ・アップ研修 [2 時間] （ALT を招いてのクラスルーム・イングリッシュやティーム・ティーチングで使う英語表現等の講習会） ○活動事例集（応用編）による歌、チャンツ、ゲーム等の講習会 [2 時間]
2 学期	○指導主事訪問授業研究会 [1.5 時間] （指導力向上のための指導方法、評価方法等の検証） ○授業研修 [1.5 時間] （研究授業とケース・スタディの実践と検証）	（個人研修）
3 学期	2 年間を振り返って ○研修会（成果と課題） [1.5 時間] （年間指導計画、効果的な指導方法及び教材活用）	（個人研修）

校内研修のためのアンケートについては、先行研究として村川・池田(2010)を挙げることができる。村川・池田は、外国語活動にカリキュラムマネジメントのコンセプトを取り入れ、マネジメントを重視した研修を紹介している。「外国語活動マネジメント問診票」というアンケート調査から各小学校の教員の実態を把握し、研修プログラムを提案している。マネジメントを取り入れているため、「目標設定」「カリキュラムのPDCA」「組織構造」「組織文化」「リーダーシップ」の各項目で現状把握ができるようになっている。

3 校内研修プランニングのための現状把握アンケートの開発

アンケート項目の開発にあたっては、村川・池田(2010)で提案された現状把握の方法に、文科省から例示されている校内研修の項目並びに国の研修プログラムの内容を加味することにした。愛知県総合教育センターで行った2日間の研修内容は、国の5日間の研修内容を網羅したものである。愛知県の研修で使った講義資料（講師の読み原稿付きのPowerPointのファイル）は愛知県教育委員会のホームページからダウンロードできるようになっていることから、その講義資料が校内研修でも活用されることを想定し、愛知県の研修で行った各研修項目についての「自信度（どれくらい理解できているか）」を調べるアンケート項目を採用した。具体的には、資料1のようなアンケート内容となる。質問1は、各研修項目についての自信度、質問2は、希望する研修項目を問うものになっている。

アンケート質問用紙については、試作を重ね、小学校現場の声も加味して、簡単でかつ短時間に実施することができることを最優先させた。その結果、各項目につきそれぞれ1から5の数字で記入するだけのシンプルな回答形式にするとともに、校内研修企画者が実態を把握しやすいように、各項目に自由にコメントを添えることができるように工夫した。具体的には、質問1は「次の各問に答えるとしたら、あなたは下のどの数字にあてはまりますか。」というもので、「分かっていない」が1、「聞いたことはある」が2、「少し分かっている」が3、「まあまあ分かっている」が4、そして「分かっているつもりだ」が5と、それぞれ問1から問10の10問に数字で答える形式である。質問2は、「校内研修をするとしたら、どんな内容を学んでみたいですか。」という質問で、質問1と同じ10の項目の中から校内研修で取り上げて欲しい内容を複数選択できるようになっている。

集計システムについては、複雑なものにせず、一般的に使われているExcelを利用して、アンケート結果の数字を入力するだけで、グラフが表示され、そのグラフの様子を見て研修内容を考えることができるようにした。また外国語活動は、高学年（5・6年）で実施されること、低学年（1・2年）や中学年（3・4年）でも英語活動として何らかの授業を行っているケースもあること、特別支援教室での実施にも配慮が必要なこと、などを考慮し、各教員の集計は、全体並びに低学年・中学年・高学年・特別支援教室ごとに行い、同一のグラフに重ねて表示できるようにした。さらにALTや担任以外の外国語活動担当教師がいる場合も考慮し、それらの集計欄も加えた。

アンケート用紙と集計用Excelファイルは、次に示したサイトからダウンロードできる。（本研究紀要にもExcelファイルを添付するので活用してほしい。）

愛知県教育委員会義務教育課小学校外国語活動サイト（講義資料）

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoiku/gaikoku/index.html>

校内研修プランニングのための現状把握アンケート

<http://www.tcp-ip.or.jp/~ainuzuka/kounaikenshu/top.html>

外国語活動 校内研修プランニングのための現状把握アンケート

()年担当 氏名()

教員用

質問1 次の各問に答えるとしたら、あなたは下のどの数字にあてはまりますか。

1＝分かっていない 2＝聞いたことはある

3＝少し分かっている 4＝まあまあ分かっている 5＝分かっているつもりだ

各問の内容について、意見や質問があればコメント欄に書いてください。空欄でもかまいません。

問1 外国語活動の授業で、どんな効果が期待できるか。

数字

コメント

問2 本校の5・6年生(担当学年の児童)にはどんな目標がよいか。

数字

コメント

問3 外国語活動の授業での担任の役割はどんなことか。

数字

コメント

問4 外国語活動の授業でのALTの役割はどんなことか。

数字

コメント

問5 新しい単語を導入する時、どんなゲーム活動をしたらよいか。

数字

コメント

問6 英語の発音指導やクラスルームイングリッシュの使用で気を付けることはどんなことか。

数字

コメント

問7 外国語活動の教材の選定(作成)で気を付けることはどんなことか。

数字

コメント

問8 英語ノートのLessonはどんな構成になっているか。

数字

コメント

問9 研究授業の指導案を書く時に気を付けることはどんなことか。

数字

コメント

問10 研究授業を行うとき(計画するとき)に気を付けることはどんなことか。

数字

コメント

質問2 校内研修をするとしたら、どんな内容を学んでみたいですか？該当項目全てに○をつけてください。

1() 外国語活動の特徴・理念の理解

2() 自校の目標・目指す児童の確認

3() 担任の役割の理解

4() ALTの役割の理解

5() いろいろなゲーム活動の実際

6() クラスルームイングリッシュや
英語の発音練習

7() いろいろな教材の開発・使い方実習

8() 英語ノートの単元構成の理解

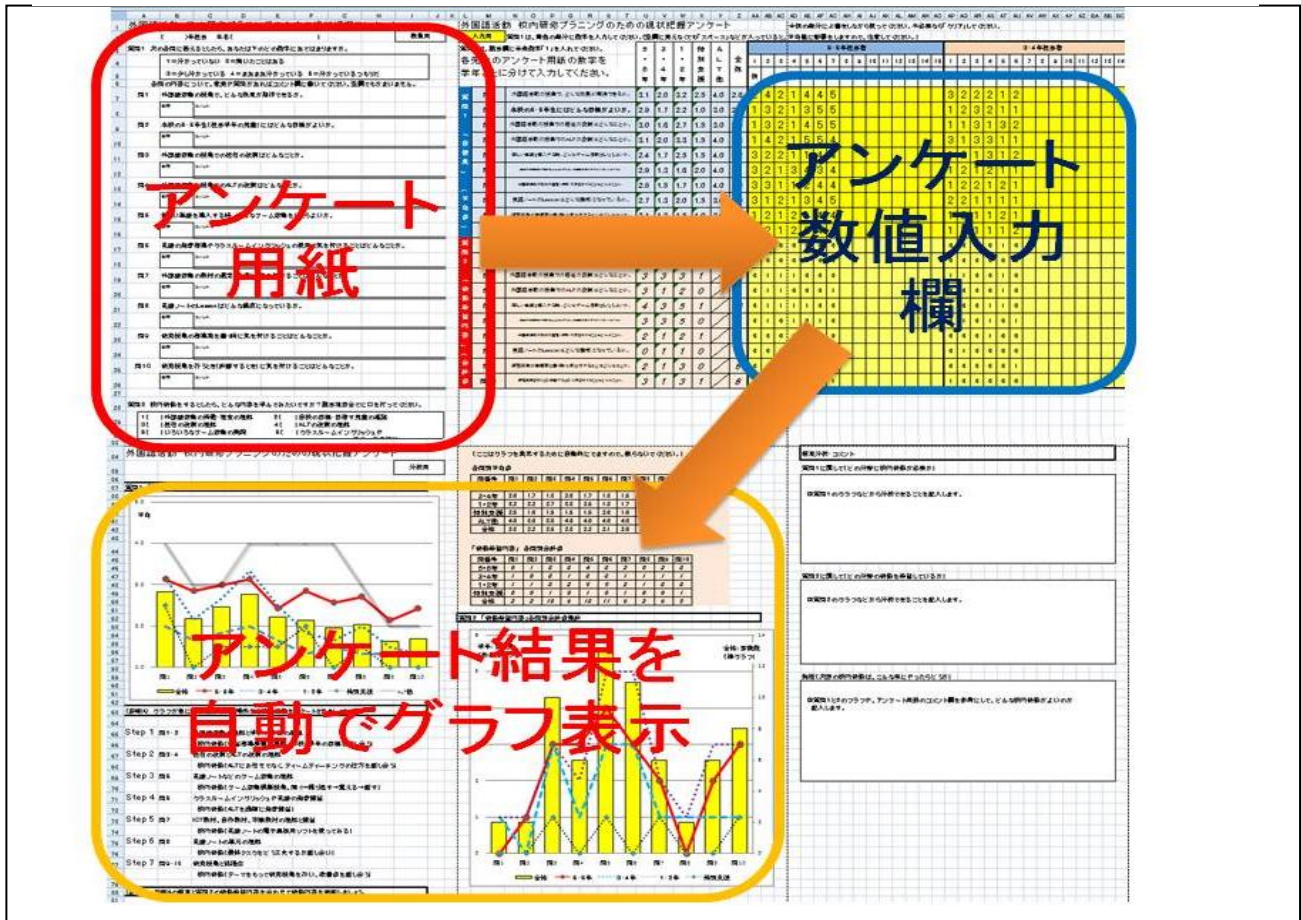
9() 研究授業指導案作成の留意点

10() 研究授業の計画の仕方・授業の実際

4 アンケートの結果と校内研修プログラミングの方法

アンケート結果の入力方法は、次のとおりである。アンケート結果は、図2のようなExcelの集計用紙の数値入力欄に数字で入力をする。すると左下に2つのグラフが自動的に表示される。2つのグラフの左側は質問1に対応するもので、各内容に対する教師の「自信度」を表している。棒グラフが学校全体の現状で、折れ線グラフは低学年・中学年・高学年・特別支援教室の担当者のそれぞれの現状を示している。右のグラフは質問2に対応するもので、どんな内容の研修を希望しているのか、教師の「興味関心の分野」が分かる。

図2 アンケート集計の画面



アンケート結果を活用した校内研修プログラミングについては、次のように考える。質問1のグラフ（左側のグラフ）の棒グラフの値が落ち込んでいる部分が校内研修のポイントであると判断することができる。そして質問2のグラフ（右側のグラフ）の研修したい内容を加味して、実際の研修内容を決定することになる。図3に示したように、Step1から7までが研修項目となり、同じExcelファイルには、それぞれの項目のモデル研修プランが示してあるので、それを活用することで校内研修を進めることができる。

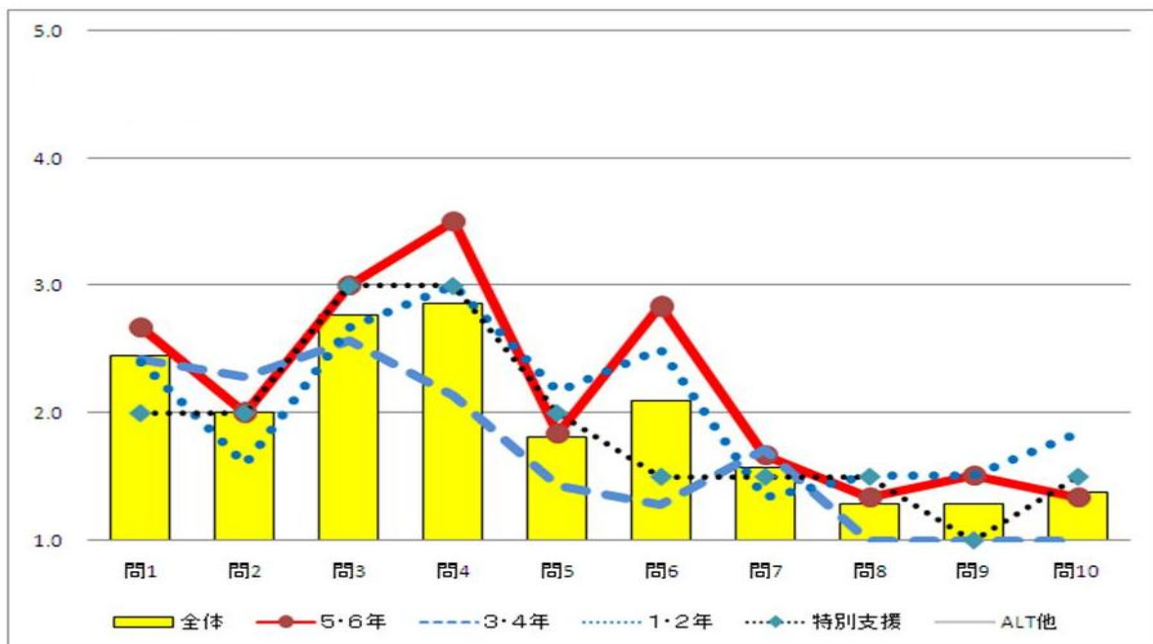
図3 モデル研修プラン

(診断A) グラフが急に落ち込んでいる場所から校内研修をスタートさせましょう。	
Step 1 問1・2	外国語活動の理解と学校の目標の確認 校内研修(学習指導要領の理解、学校・学年の目標を話し合う)
Step 2 問3・4	担任の役割とALTの役割の理解 校内研修(ALTにお任せでなく、チームティーチングの仕方を話し合う)
Step 3 問5	英語ノートなどのゲーム活動の理解 校内研修(ゲーム活動模擬授業、聞く→繰り返す→覚える→話す)
Step 4 問6	クラスルームイングリッシュや英語の発音練習 校内研修(ALTを講師に発音練習)
Step 5 問7	ICT教材、自作教材、市販教材の理解と練習 校内研修(英語ノートの電子黒板用ソフトを使ってみる)
Step 6 問8	英語ノートの単元の理解 校内研修(最終タスクをどう工夫するか話し合い)
Step 7 問9・10	研究授業と協議会 校内研修(テーマをもって研究授業を行い、改善点を話し合う)
(診断B) 診断Aの結果と質問2の研修希望内容を合わせて研修内容を判断しましょう。	

5 アンケート結果における学校の現状分類

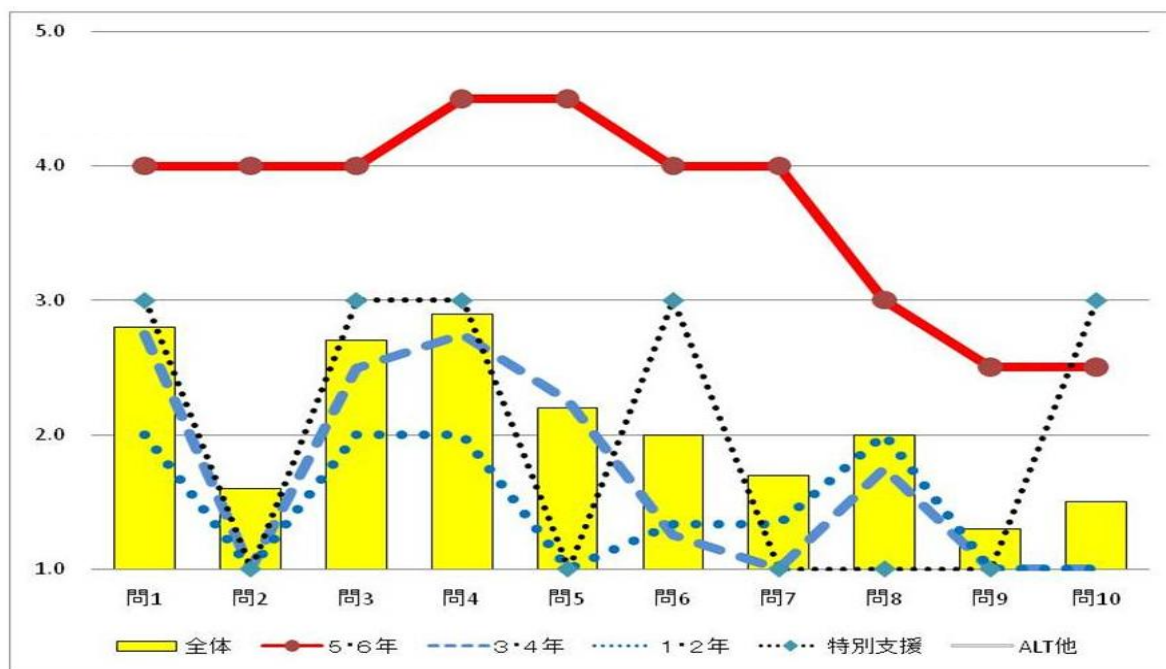
愛知県内で筆者が校内研修にかかわった6校の小学校で実際にアンケートを実施したところ、特徴的なグラフの分布を確認することができた。次にその中の3校のグラフと状況を示す。

図4 A小学校のグラフ



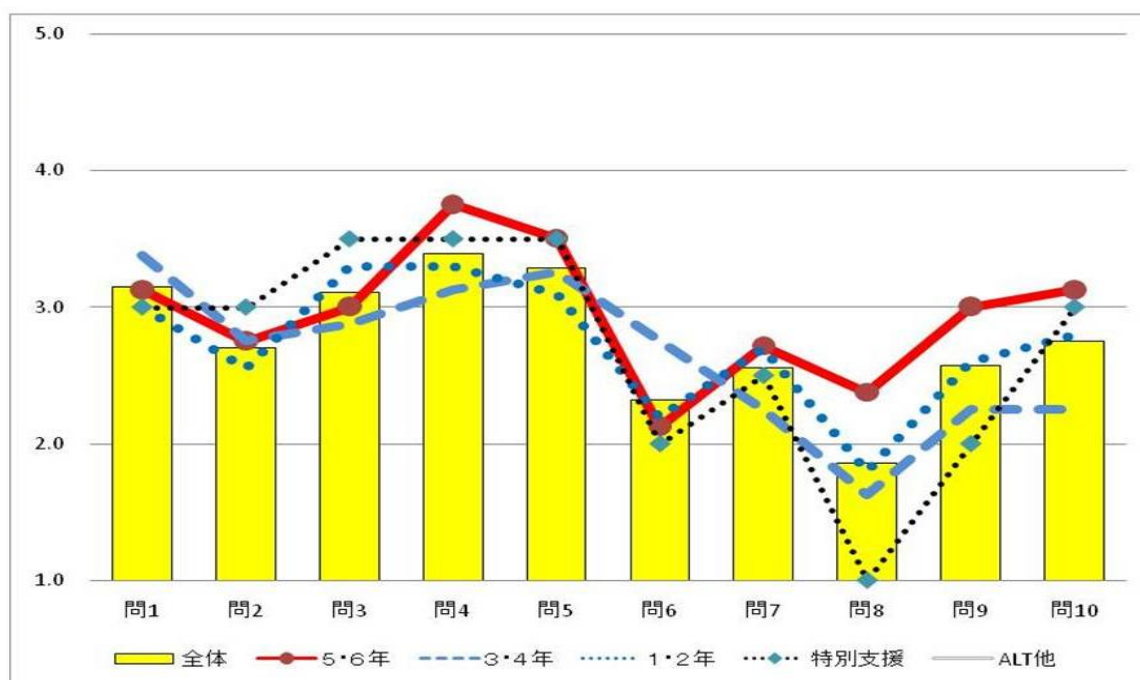
まず、A小学校のグラフ(図4)は、まだ校内研修がほとんど行われていない状態を示している。教員全体の自信度を示している棒グラフは、全体に伸びていず、平均2.0付近である。外国語活動を担当している5・6年の折れ線グラフ(太線)も平均3.0を超える項目は2項目しかない。

図5 B小学校のグラフ



次にB小学校のグラフ（図5）は、外国語活動を担当している高学年だけが熟達して、他の学年に広がっていない例である。高学年は外国語活動の授業を現在実施しており、自主的な研修会に参加するなど熱心に取り組んでいる。しかし、他の学年は授業をしていないので、あまり意識がないという状況である。実際に授業を行う高学年のみが研修に参加している状況であると、このような分布状態になると考えられる。

図6 C小学校のグラフ



最後にC小学校のグラフ（図6）は、学校全体ですでに何度も研修に取り組み、低学年・中学年も高学年と同じように外国語活動を理解できている状況と見て取ることができる。学校全体の自信度を示す棒グラフについてもすべての項目で高くなっている。C小学校の状態にまで研修が進めば、あと

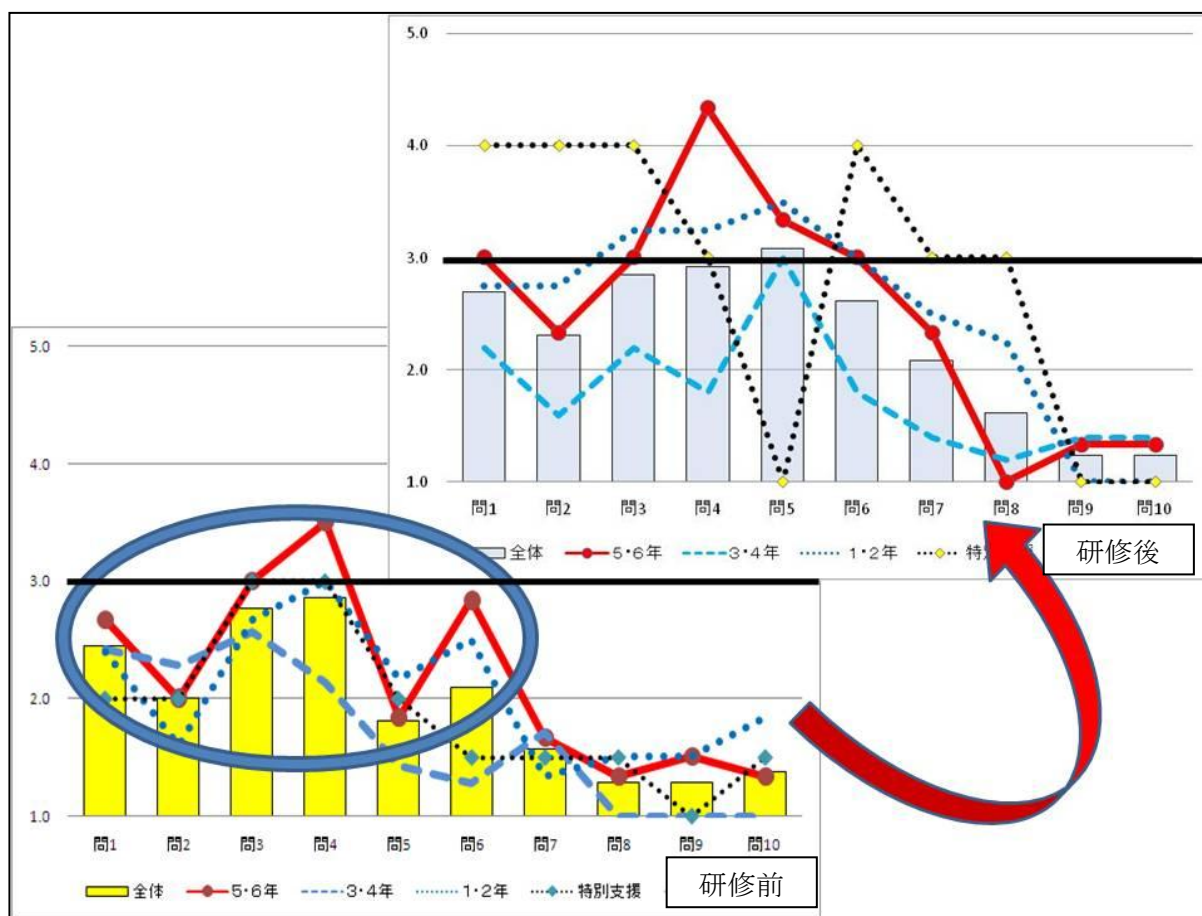
は研究授業を行い、その後に協議会を行って授業の質を高めていくことになる。その際、どの教員も主体的に協議会に参加できるように、事前に授業を見る視点を決めておき、その項目について授業参加者が付箋に意見を記入しながら授業を見て、その付箋をKJ法を用いてグループで意見をまとめていくなど、の工夫をしたい。

6 校内研修の実施成果と考察

実際に校内研修を行い、成果が表れてくるかどうかを調べてみた。先に示したA小学校で、棒グラフが伸び悩んでいる箇所の研修（図7左のグラフの○部分）を実施してみた。外国語活動の目標やその具体的な到達の仕方（ゲーム活動の組み立て方）などを、実習の形で体験してもらった。そして同じアンケートを研修会後に再度行ったところ、図7の右のグラフが示すようにグラフの変化が見られた。このことから、自信度の低い項目に焦点を絞って校内研修することで、その箇所の自信度が確実に向上していくことが分かった。

図7の右のグラフを見ると、A小学校の次の課題は、実際の授業ということになる。実際この学校は次に研究授業を行い、全教員で授業の中で児童のコミュニケーションが成立していたか、教材の工夫はできていたかなどのテーマで話し合いを行っている。このように、校内研修を何度か続けることで、自信度の低い項目を補強していくことができるのではないかと考えられる。

図7 A小学校のグラフの変容



7 まとめ（外国語活動の本格実施に向けて）

県の研修会で「校内研修プランニングのための現状把握アンケート」を紹介したところ、参加者の教員からは、「研修のポイントがよく分かる」「簡単なアンケートで使いやすい」などの感想を得た。筆者が直接研修にかかわってアンケートを実施した学校のデータのみの検証と考察であるので、一般化しにくい。校内研修の企画をする者が教員の現状を把握するのに、簡単なアンケートの実施のみで調査できる点、数値を入力するだけで必要な研修内容をグラフで分かりやすく示せる点、また簡単な研修プランとその資料を提示できる点などを考慮すると、教育現場で有効なシステムではないかと考えられる。実際に平成 22 年度に愛知県総合教育センターで実施した小学校外国語活動講座の各市町村からの研修報告書の中にも、下記のようなアンケートを活用した実施例（資料 2）が報告されている。

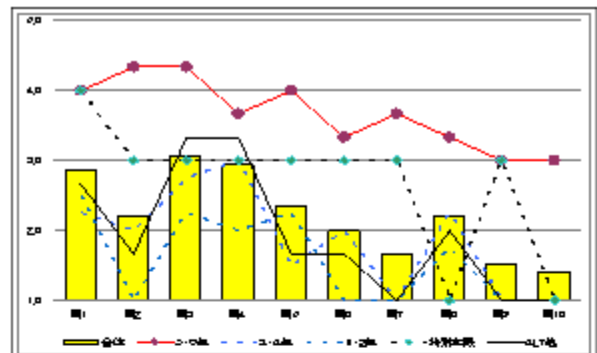
今後も、実際に活用した学校からのフィードバックをもとに、アンケートの改善やモデル研修プログラムの充実に努めていきたい。

資料 2 研修報告書「校内研修の実施例」

2 校内研修の実施例

(1) 校内研修プランニングアンケートの実施

センター研修で学んだプランニングアンケートを利用し、職員の外国語活動に関する意識調査を実施した。その結果、右のような実態が浮き彫りになった。また、併せて職員の希望する研修内容についても調査を行った。



【アンケート結果】

(2) 中核教員による講義

小学校英語活動のねらい等について確認した。同時に、職員アンケートの結果から校内研修の方向性を示し、教材の種類・活用及び授業の組立を中心に校内中核教員の指導の下、研修を実施した。



【校内研修の様子】

(3) 5年外国語活動研究授業

研究授業の実施にあたって、各学年で仮想指導案（略案）を作成し研究授業に臨んだ。各学年で作成した指導案と比較しながらの参観だったため授業の視点が確かであり、意義深い機会となった。

(4) 研究協議会

各学年で作成した指導案と比較しながら、活発な意見交換が行われた。教材や指導法に関する検討ができただけでなく、授業学級の見童の活動への意欲の高まりから外国語活動の意義を再確認することができた。

参考文献

文部科学省(2008)『小学校外国語活動研修ガイドブック』東京：旺文社

村川雅弘・池田勝久(2010)『小学校外国語活動のための校内研修パーフェクトガイド』東京：教育開発研究所